

みなさまへ

仙台での総会以後、ふれジョブをしていただくうえで どうしても読んでいただきたいなあと思う文章がブログ「ふれジョブって。」に書けるようになりました。それは震災地を自分の足で歩き、魂の土を手で触れて感じさせていただいたおかげです。ここ玉島に住み、感じる事が多くあるおかげです。それらは今、この時にしか書けないもののように思います。

どうしても「いのちをよるこびあうふれジョブ」にしたいと思います。

9月9日 西 幸代

こどものこと1(9月5日のブログより)

もしも

竹中 郁

もしも この地球の上に
こどもがいなかったら
おとなばかりで
としよりばかりで
おとなはみんなむっつりとなり
としよりはみんな泣き顔となり
地球はすっかり色をうしない
つまらぬ土くれとなるでしょう

こどもははとです
こどもはアコーデオンです
こどもは金のゆびわです

とびます 歌います 光ります
地球をたのしくにぎやかに
いきいきとさせて

こどもは
とびます 歌います 光ります
こどもがいなかったら
地球はつまらない土くれです

故小宮山量平さん(理論社)のご長女 荒井きぬ枝さんに送っていただいたものの中にあつた詩です。
いま、ふれジョブであそぶ子どもたちがいなかったら やはり地球はつまらないと思います。
おとなたちが童心を取り戻せる定例会がなければ つまらないと思います。
まさに 'あそぶ子どもの声聞けば わが身さえこそ動くがるれ'。

子どもは「もっとも完成された創造物」と小宮山さんは言われました。ふれジョブをしている障がいのある子も「もっとも完成された創造物」です。ふれジョブを作らせてくれたTさん、残されたコミュニケーション手段が呼吸だけだった子もまた、最重度の障害を持ったままで「もっとも完成された創造物」ということばがぴったりくるお子さんでした。

こどものこと2 (9月7日のブログより)

小宮山量平さんの言葉「2歳から5歳まで チュコフスキー」筆者に捧げたことばから。

こども — あなたにとってそれは、たんに未熟なヒナドリではありませんでした。むしろ、もっとも完成された創造物であり、損なわれてはならない人類の原型でした。こどもたちは、決して役たたずでもなく、かわいい愛玩物でもなく、人間の一生の中でもっとも豊かで、意味深い労働をいとなむ知的労働者であり、人類の創造性を保障する原動力でした。こどもたちは、楽天的で、前進的で、自由で、彼らに対しては、教えることよりも、彼らから学ぶもののほうが多いことをあなたは指摘しつづけたのでした。

こどもの「はたらく」が「人類創造の原動力」になって社会が作られてきた。私もそう思う。今、社会に噴出する問題は、こどものあつかいに大きな間違いをしてきたから起きていると思う。社会の中で大切な「はたらく」をしてきた子どもたちを、「消費の対象」として見、「足りないもの」「できないもの」または「愛玩物」として見、大人たちがもてあそぶ。ついに、障害のあるこどもたちにまでその手が伸びてきたのが今の時代。これほど酷く、こどもたちを大人の我欲のステージに載せている時代はないと思う。

ふれジョブで取り戻したいことは、
地域でこどもの果たしている大切な役割を意識しなおすこと、
子どもを経て大きくなった大人たちもまた存在の価値を互いに讃え合うこと。
目に見える価値、名声や大きなお金(我欲)がふれジョブを壊すという気づき。

そして、いつも本物のまなざしは無償だということ。